

チェルノブイリの子どもたち

チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 81 2010年6月20日発行



チェルノブイリ 24 周年 救援キャンペーン

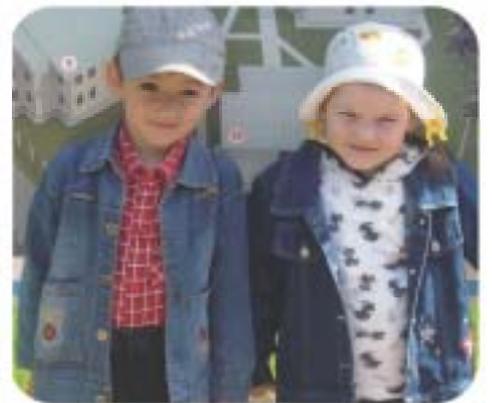


4/21～4/23 広河隆一チェルノブイリ写真展 4/24 講演会 & チャリティコンサート



ウクライナ

汚染地域に住む病気の子どものための保養 5/25～6/7



ベラルーシ

チェルノブイリ被害者家族の保養
5/17～5/28

みなさまのあたたかいご支援
ありがとうございます



音楽を通してチェルノブイリの子もたちを感じたひととき

小寺 隆幸 (チェルノブイリ子ども基金 副理事長)

チェルノブイリ事故から 24 年目の 4 月。チェルノブイリが全く報道されない中でも 300 名もの方々が来て下さり満席となりました。

第一部は事務局長・佐々木真理による現地報告。冒頭、子ども基金の今年のカレンダーの写真(3月)に使われているウクライナのダリーナちゃん(8歳)の笑顔がスクリーンにアップ。脳腫瘍を患いながらも希望に微笑んでいたいたいけな少女の命の灯は、この3月30日に尽きてしまいました。彼女だけではありません。1月には4歳の男の子(その子は筆者の里子でした)が白血病でなくなり、4月にも別の少年の悲報が伝えられました。24年前の事故の被害は今も続いています。3月にゴメリを訪ねて里子たちと会ってきた佐々木さんは、一人ひとりの近況を紹介し、「子どもたちが病気になるのを聞くことは悲しくつらいが、伝えていかねばならない。こういう悲惨な状況の中でも懸命に生きようとしているのです」と語りました。

第二部はソプラノのオクサーナ・ステパニウックさん、バイオリンの印田千裕さん、ピアノの田中良茂さん、そしてバリトンの丹羽広さんによるコンサート。ウクライナで事故を体験したオクサーナさんは、バンドウーラを弾きながらウクライナ民謡を切々と歌われました。共演された日本の音楽家の方々もすばらしい演奏を響かせてくださいました。サラサーテなどの曲と共に、幸田延(幸田露伴の妹)のヴァイオリンソナタなど、聴くことのできない曲も演奏されました。最後に皆さんで演奏されたカッチーニのアヴェ・マリアは心にしみいるようでした。「目をとじ聞き入ると、チェルノブイリの被害にあった子どもたちや人々の想いが感じられ、胸があつくなりました」という感想が寄せられ

ました。確かにこのとき会場の人々は、子どもたちを思いながら、悲しみを昇華する音の世界を共有したのです。この記憶が私たちの中に息づき、数千キロを超えた子どもたちとの消えることのない心の架け橋となりうると思うのです。音楽にはその力があります。

公演後、出演者の丹羽さんが、「ステージからステージ裏までボランティア精神で貫徹されたコンサートというのは本当に心に残るものがありました」と語られました。実際、このコンサートは演奏家の方々のチャリティへのご協力と、高校生からベテランまでの延べ64名のボランティアの方々の尽力によって実現しました。本当にありがとうございました。

~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*

ボランティアに参加して

仁科 有里

私がチェルノブイリの原発事故を知ったのは、チェルノブイリの原発事故が起きた際、現地に救援物資を送り、被害者の方たちを応援していたことを、父から聞かされてからでした。私は将来社会問題をボランティアを通して解決していきたいという目標があるので、NGOとして活動しているチェルノブイリ子ども基金のボランティアに参加させていただきました。

ボランティアに参加すると現地の生々しい映像、写真、そして報告会で知らされた多くの事実...、現地では今もまだ被害に苦しんでいる人が大勢いることを知りました。

一人ができることは、小さなことかもしれないけど、みんなの『助けたい・協力したい』という思いがボランティアという形で現地の方を応援することは世界を変えていくために大切なことだと思います。

私の世代の人たちは、生まれる前のこの原発事故を知らない人がほとんどです。今回行われた写真、映像、被災者訪問報告を通して後世に

知ってもらうこと、伝えていくことは、『平和』を訴えて、世界を知ってもらうためにも必要なことだと思います。また今回このボランティアに参加した高校生は私だけだったのですが、私のような学生がこういったボランティア活動に参加して何かを感じてほしいと思いました

来場者の感想

24年前の出来事は良く覚えています。そして時々報道があるとき見ていましたが、そのたびに悲惨な状況を知り胸を痛めていました。わたし自身は何かできるわけではありませんが、こうしたチャリティコンサートに参加することくらいです。またぜひコンサートの企画を、と思います。今日は学ばせていただいたこと、素敵な音楽をありがとうございます。(60代)

チェルノブイリについてまったくといっていいほど何も知りませんでした。写真と図を合わせた説明がとてもわかりやすく、衝撃を受けました。同年代の子どもたちがこんなにも苦しんでいること、事故から24年と言ってもまだ大量の放射能が残っていること、とても勉強になりました。バンドウーラの音色もオクサーナさんのソプラノもとってもきれいでした!(10代 女性) 私自身を気付かせていただき感謝いたします。印田様はじめオクサーナさん、出演者の方々に心より感謝申し上げます。(40代 男性) 貴重なイベントです。現実を伝えることと人間の持つ美しさと両方を通して、見据えて、私たちは新たな未来をつくっていく必要があると思います。

(40代 女性)



大使からのメッセージ

在日ベラルーシ共和国臨時代理大使 ヴァチェスラフ・ベスコスティ

1986年4月26日に発生したチェルノブイリ事故から24年が経ちました。ベラルーシ南部地域で行われている被災者のリハビリテーションを目的とした国際協力活動へのチェルノブイリ

子ども基金の積極的な参加に対し、在日ベラルーシ共和国大使館は心から感謝の意を表明いたします。貴団体の精力的な医療、人道支援活動はチェルノブイリの被害抑制に貢献し、多くの命を救ったと確信しています。このような気高い率先的活動は、支援を必要としている人たちに希望を与えるものです。

ベラルーシと日本の悲劇をより深く理解し、相互の信頼関係がさらに高まることを願っています。ベラルーシ大使館は、貴団体が必要とするあらゆる手助けを喜んで提供します。今後ともよりいっそうの協力関係をチェルノブイリ子ども基金と築いていきたいと願っています。

在日ウクライナ大使 ミコラ・クリニチ

24年前に起きたチェルノブイリ原発事故は、ウクライナの各家族の人生だけでなく、他国の多くの人々の人生も変えてしまいました。チェルノブイリの影響は今でも残り続けています。しかし一番痛ましいことは、何の罪のない子どもたちが苦しんでいるということです。

事故から24年経過した今も、日本のNGO等民間団体はチェルノブイリ被害者に対する様々な援助を続けています。貴基金の大変積極的な活動、被害者である子どもに対する援助に、心より感謝を申し上げたいと思います。活動報告会、広河氏の写真展、チャリティコンサートなどを毎年行い、チェルノブイリの悲劇の情報を多くの人に伝えるのは非常に大事なことだと思います。チェルノブイリの影響は完全になくなったわけではない、その悲惨な経験を忘れてはいけなく、将来そのような悲劇を繰り返さないように我々全員が頑張らなければならない、というメッセージを一人一人の心に伝えなければなりません。

ウクライナ大使館を代表しまして、貴基金のチェルノブイリ被害者に対する救援活動に深く感謝を申し上げます。



2010年3月 家族訪問 (その1)

報告 佐々木 真理

今年の冬は例年より長く厳しい冬だと、みんな口々に話していました。雪の降る3月ベラルーシの家族を訪問しました(これらの子どもたちについて4/24(土)文京シビックの報告会で紹介しました)。

C・ルスラン 3歳 2007年生まれ
ゴメリ州ドーブルシ地区クルベツ村

腎臓の悪性腫瘍。2009年7月、ミンスクの小児ガンセンターにて腎臓の手術を受けた。その後、ゴメリ市の病院で化学療法を受けた。現在もそこで毎月検査を受けており、数ヶ月に一度は小児ガンセンターにも検査を受けに行く。

父親は昨年秋に自死した。息子をとても愛していたから、病気のショックに耐えられなかったのだという。ルスランと母親ディアナ(23歳)は、村に住む母親の両親の家で暮らしている。「娘がもう生きる気力を無くしてしまうのではないかと心配し、しばらくは自分たちの家で一緒に暮らすことにしました」とディアナの母親。また、ディアナの妹オクサーナは、2002年に白血病のため10歳で亡くなっている。母親は彼女のアルバムを作っていた。写真、病院で作ったビーズの作品、母親に宛てた手紙、チェルノブイリ証明書、医師の診断書、死亡証明書、そして髪の毛。下の娘の死、孫の病気、上の娘の夫の死。この家族はあまりにたくさんの悲劇に見舞われた。



B・アーニャ 2001年生まれ
ゴメリ州レリチツァ地区ドゥブロヴァ村

腹膜後腔の神経芽細胞腫。腹膜リンパ節への転移を伴う腹膜後腔の非弁別の神経芽細胞腫。) 2007年、盲腸炎にかかり、その後腫瘍が発見され。小児ガンセンターで化学療法を受けた後、手術で腫瘍を切除、さらに放射線照射治療を受けた。2008年10月まで1年間入院。現在は3ヶ月に一度小児ガンセンターに検査に通っている。



アーニャの実の母親は亡くなり、父親は刑務所で服役中。3年前、両親は言い争っているうちに父親が母親を殺害してしまった。別の村に住んでいる叔母がアーニャと妹を家に引き取って暮らしている。叔母夫婦は村の集団農場で働き、自分

の家でも家畜を飼い野菜を作って生活している。叔母夫婦には二人の娘(19歳と13歳)がいるが、みんな本当に姉妹のように暮らしているという。アーニャは今の暮らしに慣れてきたものの、父親や、以前住んでいた家を恋しがっている。一方で母親を亡くした精神的なショックも残っている。

住んでいる村にはイタリアの慈善団体からの支援がある。夏になると学校の子どもたちはイ



タリアに保養に行くことができる。しかしアーニャのような病気の子どもは受け入れてもらえない。アーニャは昨年、慈善団体を通じて、他の病気の子どもたちと一緒に、アメリカの家族のところでホームステイをした。このようなアメリカからの支援は、もう今年は行われないう。

村のすぐ近くを通る道の両側の森に放射能マークが続く。柵も監視所もなく、誰でも自由に入れる。このような森でとれたきのこが町で売られるという。伐採した木を運ぶトラックが出てきた。この森の木を薪燃料として使ったら、放射能を吸い込むことになる。

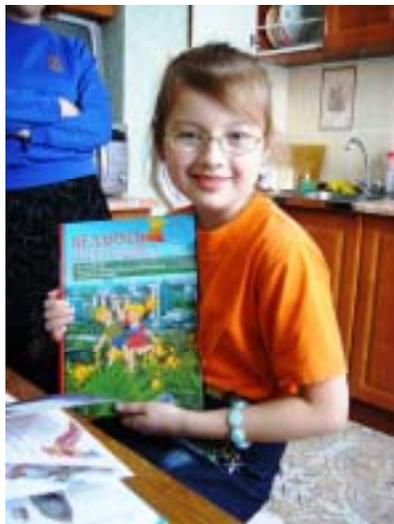
アーニャの叔母「チェルノブイリの影響はもちろん今でもありません。周りの多くの人が病気になっているのを見ればわかります。放射能のある土地でできた食べ物を毎日食べているのだから影響があるにきまっています。近くの森は放射能マークの看板があります。そこで伐採した木を家で燃料として使い、燃えカスを肥料として畑に撒いています。放射能は見えないけれどそこに含まれています」

B・ウラディク

2002年生まれ

ゴメリ地区 テレシ村

先天性腎臓発達異常。左腎臓の水腎症。チェルノブイリ障害児認定。2007年左腎臓切除の手術を受けた。右の腎臓にも異常がある。半年に1度ミンスク市の病院に検査に通っている。ゴメリ市の病院にも毎月検査に通っている。検査費用は無料だが交通費は自費負担。



ミンスク市までの交通費は往復およそ30ドルかかる（父親の給料は50ドル）。甲状腺にも異常が発見され、このための検査にも行かなければならない。父親「以前なら、障害児の通院のための交通費は18歳まで無料だったのに、法律が変わり、今はみんな自己負担になりとても大変になってしまった」（2008年12月17日に障害児の特典が廃止された。）母親「国からの支援はほとんどないと感じます」以前住んでいた村は病院に通うのに不便なところだったため、3年前に今の村に越してきた。住んでいる家は村の農場労働者用の家で、そこでの仕事をやめたら家を出ていかなければならない。「朝から晩まで働いて得る収入では、公共料金を払ったら何も残りません。仕事ばかりで子どもたちの顔を見る間もありません。庭で野菜を作り、鶏と豚を飼っていますが、そうしてないと暮らしていけません」4歳の妹ミラーナは、体が弱く幼稚園を休みがちである。

P・マリーナ

2002年生まれ

ゴメリ市

骨髄異形成症候群（骨髄の中で十分な量の血球 赤血球・白血球・血小板 を作ることができなくなる病気）。2005年に発病、2006年2月小児ガンセンターに入院。弟の細胞を骨髄に移植した。年に1度、検査・治療に通っている。チェルノブイリ事故障害児に認定

されている。絵を描くことと音楽が好きで、バイオリンを習っている。しかし体調が悪く学校は休みがちである。

父親は昼間から酒を飲んでいて、話していてもろれつが回らず、ふらふらしていた。「もう

離婚届を出しているが、他に住む所がないのでまだ一緒に暮らしている、早く出て行ってほしい」母親のタチヤナは精神的に疲れている様子。

障害児認定されると、その家族は優先的にアパートに入ることができる。そのような家族のための団地がたくさん建設されている。この家族の暮らしているところも、チェルノブイリ事故後に作られた新しい地区。障害児特典としてアパートを得た多くの家族が住んでいる。しかしすぐ近くを流れる川の向こうは、放射能汚染が強い地区だという。現地団体の代表者は「本当ならこんな場所に居住地区を作るべきではない」と言った。

母親「子どもたちには栄養のある食べ物、肉や果物を食べさせるように努めています。自分の食べるものはいつも二の次です。24年経ってもチェルノブイリの影響はあり、これからも続くと思います。まわりに健康な人はほとんどいません。病院は小さい子どもでいっぱいです。ここがあまり安全でない地域だとしても、他に住むところがないのだからどうしようもありません」

B・ボグダン 2003年生まれ
ゴメリ市

1230グラムの未熟児で生まれた。脳水腫と診断され、生後7ヶ月のときに手術を受けた。後遺症：神経感染症及び出血、2次的脳水腫。3種類の薬を服用している。ゴメリ市の病院で年に1度定期検査を受ける必要がある。チェルノブイリ障害児に認定されている。

手術のときにチューブ（脳の中の脳髄液を体の他の所に流して吸収させる）が体に埋め込まれた。アメリカ製でおよそ400ドルだった。チューブは成長に応じて交換しなければならない。夏に検査に行き、医師の判断で交換する時期が決まる。病院で無料のチューブは質がよくない。親たちはお金がかかっても質のよいものを選びたいと思う。

ボグダンは体が小さく痩せている。ほとんど食欲がない。手がうまく使えず、介助がないと

鉛筆などを握ることができない。知的発達の遅れもある。本を読むことが好きだが、字を読んでも意味はわかっていない。歩行障害もある。視力も大変弱く、視力障害者の子どものための幼稚園に通っている。今年9月には小学校入学の年齢だが、おそらく通学は来年になるだろう、と両親は話した。

母親イリーナ30歳。昨年12月に脳腫瘍の手術を受けた。手術後、食欲がなくなり痩せてしまった。顔色もよくなかった。何種類もの薬を飲んでいる。「チェルノブイリの影響は、今でももちろんあると思います。たくさんのガンの患者を見ました。息子や自分自身もこうして病気になってしまっています」イリーナはおだやかな笑顔ながら、力のない声で話した。



~~~~~  
ゴメリ市の慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」  
2~17歳の会員（2010年3月時点）

| 病名        | 人数      |
|-----------|---------|
| 甲状腺ガン     | 22名     |
| 脳腫瘍       | 41名     |
| 目の腫瘍      | 24名     |
| 肝臓ガン      | 21名     |
| 腎臓ガン      | 22名     |
| 白血病及び血液病  | 57名     |
| 小骨盤のガン    | 19名     |
| 鼻咽頭ガン     | 10名     |
| 皮膚ガン      | 4名      |
| その他の病気（ ） | 13名     |
|           | 合計 233名 |

（染色体疾患、脈管発育異常、成長欠損など）

# チェルノブイリ原発事故 24 周年 各地の集い〔報告〕

## 被曝した子どもたちの願いに応えるために

にしぶりえ (24 周年企画 in 名古屋実行委員会)

名古屋 YWCA ビッグスペース 4/25

チェルノブイリ原発事故から 24 年。今年も名古屋で、規模こそ小さいけれどぎゅっと中身の詰まった救援イベントが開催されました。展示された写真から漂う静かな悲しい気持ちは、けれどチェルノブイリ救援中部さんによる菜の花プロジェクトのパネルに救われるような感じがありました。同じ会場に続きの展示にしたことで、一つの方向を、希望を提示できたような気がしました。写真展だけでは、伝わらないこと、それは自分にも何か出来る！という希望です。また、講演会でも、今着実に第二のチェルノブイリを生まない努力、そして汚染された地域や人々の再生への努力が行われていることを知ることが出来ました。私は広島を知らなければチェルノブイリのことなど知ろうともしなかつたかもしれません。過去のことを知る事は、世界に目を向け、未来を考えることなんだなぁと改めて感じています。欲を言えば(!)ウクライナの今をもっともっと伝える展示にしたかった！

## “ノーモアチェルノブイリ関西の集い”を終えて

池島 芙紀子(実行委員会)

大阪市城北市民学習センター 4/29

24 年前の事故以後、毎年 4 月に集会を重ねてきたが、今年は「もんじゅ」運転再開の直前でもあり、第一部を「もんじゅ」運転再開抗議集会と位置づけ、小林圭二先生から「もんじゅの事故で、日本もチェルノブイリに」と題したお話し。私の方から取組み提案を行なった。第二部のオクサーナさんのチャリティコンサートは、さすがに国際コンクールで、何度も優勝されるだけあって、素晴らしい歌

声に、皆うっとり聞きほれてしまった。寸劇「天国と地獄」も、神様役、天使役の子どもたち、プルトニウム、セシウム役も大変な熱演で一回上演が惜しいくらい。なお、チャリティバザーには吉永小百合さん、坂本龍一さん、竹下景子さん、湯川れい子さんから高価な品を提供していただき、収益金はチェルノブイリ子ども基金の方へ送らせていただいた。多くの賛同者にも深く感謝している。(注)上記 2 団体より、募金をいただきました(15p 参照)。ありがとうございました。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

## 広河隆一 チェルノブイリ写真展

4/21 ~ 4/23 文京シビック展示室

来場者の感想

全文は HP に掲載

チェルノブイリはまだ終わっていないと実感しました。(30代 女性)

チェルノブイリ原発事故...日本ではすでに遠い「昔の話」でしょう。私もまた、そう思う一人でした。たまたま通りすがり、以前勤めていた業界が建設関係だったのもあり、正直興味本位で立ち寄りしました。少しだけ見て、すぐ帰ろう、そう思いながら写真を見始めたのですが、5、6 枚の写真、そして案内板を見ている内にその心境は変わって行きました。まず、今もチェルノブイリ事故は「済んだ話」ではない。写真の中の人々の表情より現状が伝わって来るようで思わず見入ってしまいました。その写真は、テレビで淡々と「事実」を流すものとは違い「真実」をとらえている迫力とメッセージ性を感じました。日本は原子力の技術がチェルノブイリ時より格段に進歩し、現在は「安全な発電力」と銘打ち、自国もそして他国にも発電所を建設しています(略)。(30代 男性)

地図や新聞があり、場所がどこかというのがわかりました。自分より若い人たちが病気になる、手術に耐え、それでも亡くなっていったというのが辛いです。(20代 女性)

チェルノブイリ原子力施設に問題があり、これは、ソ連だけの問題ではなくなった。(男性)



# ベラルーシ チェルノブイリ被害者家族の保養

実施期間：5/17～5/28



また親子で参加できるゲームやスポーツ大会に参加しました。子どもたちのための絵画・陶芸教室もありました。これは、昨年の参加者の意見を参考に取り入れられました。母親は一人を除き全員が10代の頃「子ども基金」の招待によりこのセンターで保養をしたことがあります。子どもたちはすぐにこの環境に適応しみんな仲良くなりました。

ベラルーシ ミンスク州  
レイカ地区「子ども健康回復  
センター“希望21”」

参加者：8家族 19人（子ども8人：3～9歳、大人11人：20～36歳）  
滞在費：子ども8人×18.4ドル×12日間 1766ドル、大人11人×21.6ドル×12日間 2851ドル  
合計 4617ドル

チェルノブイリ被害者家族の保養は今年で3年目です。年間を通して放射能汚染地域の子どもたちを受け入れている「希望21」で行われました。参加した母親全員が、子どもの頃甲状腺の手術を受けた人たちです。ホルモン剤の服用と定期検査が欠かせません。なかでも、甲状腺だけでなく副甲状腺も切除した女性は、体調があまりよくありません。甲状腺ホルモンもカルシウムも不足していました。母親だけでなく父親の健康にも問題があります。背骨に異常のある人や、胃腸の病気の人もいます。センターの医師によると、大人も子どもも呼吸器が弱く、免疫力が低いそうです。保養中はさまざまな医療サービス（マッサージ、水圧療法、歯科治療、アロマセラピーなど）を受けました。



===参加者の感想===

初めて参加した。娘は「ここは自分のおうちだ」と言っている。夫も大変気に入って、私たちはみんな帰りたいくらい。（H・カーチャ 25歳）  
医療スタッフをはじめみんながあたたく親身になって接してくれた。こんな素晴らしい保養所は他にないと思う。（Y・サーシ 27歳）  
医療サービス、食事、子どものための教室、すべてに満足。いろいろな楽しい催しもあり退屈する暇がないくらいだった。（P・アンナ 27歳）

===参加者からの手紙===  
チェルノブイリ子ども基金と  
日本のみなさまへ

保養に招待してくださり本当にありがとうございました。みなさまのおかげでこのように素晴らしい場所で過ごすことができました。私たちはずっと元気になったように感じます。国から受けている障害者年金は、このような保養をするには足りません。私たちの健康状態は毎年悪くなっていきます。ですから年金の半分は治療費に充てなければなりません。このような保養の機会を与えていただいたことに、心からお礼を申し上げます。

保養参加者一同より



# ウクライナ 病気の子どもたちの保養

実施期間：5/25～6/7

参加者：子ども 24人(8歳～15歳)、引率者 5人、  
場所：ウクライナ エフパトリヤ市 「国立子どもサナトリウム」  
滞在費：子ども 24人×25.27ドル×14日間 8490ドル、大人 5人×31.54ドル×14日間 2207ドル  
合計 10697ドル



した。また敷地内にはさまざまな花や草木が植えられ、まるで植物園のようです。ちょうど訪れたときはさまざまな種類のバラが咲き乱れていました。

## 参加した子どもたち

### 子どもたちの保養に初めて利用するサナトリウム

今年のウクライナの子どもたちの保養は、保養地として有名なクリミア半島にある、子ども専用サナトリウムを初めて利用しました。黒海に面したエフパトリヤという町は、昔から子どもの療養地として知られています。

滞したサナトリウムは90年の歴史があります。小児麻痺、呼吸器官の病気の子どもなどが、ウクライナだけでなく、ロシアや旧ソ連の各共和国からも療養に訪れます。敷地内には、宿泊棟・治療棟・食堂・売店・運動場・野外ステージなどが点在しています。職員数は800名。6月時点での滞在者数は約900名(付添の大人も含む)でした。

建物は古いものの、治療や食事には十分な配慮がされ、職員の対応も親切で心のこもったものでした。午前中は治療スケジュールが組まれています。鉱泉プール、トレーナーの指示による体操、マッサージなど。午後は自由な時間です。スポーツ大会やコンクール、夕方は野外広場でディスコや映画上映などがあります。何よりも子どもたちが一番喜んだのは、海が目の前に広がる自然環境で



子ども基金と協力関係にあるキエフ市の慈善団体「チェルノブイリ子どもたちの生存」が窓口となり、放射能汚染地域にある病院の医師が推薦した、病気の子どもたちを招待しました。汚染地域のジトーミル州ナロジチ地区・オブルチ地区などから、骨や筋肉の異常や、呼吸器官の病気の子どもたちが参加しました。また、成長ホルモン不足により身長の伸びない子どももいました。参加者全員がチェルノブイリ事故被害証明を持っています。参加者のほとんどがナロジチの同じ学校に通う子どもたちでした。その学校の先生と町の小児科医が引率役をつとめました。他の町から来た子どもたちも、みんなとても仲良くなりました。

サナトリウムには、母親と一緒に療養中の車椅子の子どもや、杖をついて歩く子ども、治療用の靴を履いて歩く子どもなどが、たくさん滞在していました。また、身体障がいのある職員もいました。「子どもたちの生存」の代表者は言います。「ウクライナでは、身体障がいのある子どもを町の中で見かけることはほとんどありません。彼らと同じサナトリウムで過ごしたことも、私たちのグループの子どもた

ちにとって良い経験でした。自然に手を貸したりしてよかったと思います」

### 子どもたちの感想

この保養に参加できてとても感謝しています。たくさんの友だちができました。何より素晴らしかったのは海です。美しく時々大きな波がきました。花や木がたくさんある環境も気に入りました。(I・ヴェロニカ 11歳 オブルチ)

僕はこのサナトリウムがとても気に入りました。海、プール、体操、いつもおいしい料理の出る食堂。エフパトリヤの町も散歩しました。日本のみなさん、ありがとう。(M・ディーマ 10歳 ナロジチ) きれいな空気、きれいな海、きれいな施設、素晴らしい引率の人たち。こんな夢のような素晴らしい保養をありがとう！できたらまた来たいです。(P・ターニャ 12歳 ナロジチ) 僕が気に入ったのは、海・食堂・プール・部屋・ディスコです。折り紙と日本語の挨拶も覚えました。僕は家では両親の手伝いをするのが好きです。僕には生まれて3ヶ月の弟がいます。僕は弟が大好きです。(S・ナザール 9歳 ナロジチ)



**引率者の声：**国が保護しなければいけない汚染地域の子子どもたちが放置されていることを、とても悔しく思います。日本の人たちがこんな素晴らしい保養に招いてくれて本当に感謝しています。子どもたちはみんな大喜びです。海辺での保養は、彼らの健康に大変役立ちます。(ナロジチ中等学校 教育者 D・ワシーリ)

(報告 佐々木真理)



## 里親のページ

### ～ 里親のみなさんからの手紙 ～

🖋 里子とその母親の写真を見ながら、実際に目の前に対面しているような感覚になりました。毎月支援金を振り込んでいます。それがお役にたっているのかなあと少し実感がわきました。ベラルーシの物価を見ながら、里子の家族の暮らしはどんなのかと想像しました。病身だけではなく社会環境や人とのつながりが円滑にいないため、身体にも気持ちにも、相当な負担がかかっているのだらうとも思いました。物質的なことだけでは解決しないものを感じます。直接、具体的にやれることはほとんどないのかもしれませんが、偶然知った彼女たちが自分の中に、まず「隣人として」なるところから始まるのかなと思っています。(三重県・Mさん)

🖋 ローマ君は病気のせいで食事制限もあるとか、心が痛みます。私の援助が少しでも役に立てば嬉しいです。手紙を書いて送ってみようと思います。(東京都・Kさん)

🖋 もう少して満14歳の春を迎えられる筈のサーシャ君が死ぬなんて、悔しい限りです。(東京都・Fさん) Fさんのベラルーシの里子は脳腫瘍のため4/12に亡くなりました。

### ～ 里子の家族からの手紙 ～

🖋 このごろナースチャの具合が頻繁に悪くなります。治療にはずいぶんお金がかかります。実際、十分な薬を買ってあげることができません。娘は体調が悪いため今年は進級できないのではないかと心配しています。家は直ぐにも修理しなければならいのですが、どうにもしようがありません。すべてに儉約しなくてはならず、できないことばかりです。あなたのご健康とご多幸をお祈りします。(ベラルーシ ブダコシェリョヴォ市)

!!! 里親募集中!!!

ベラルーシの子ども。急性リンパ白血症(10歳)、腎臓ガン(13歳)、脳腫瘍(13歳)。詳しくは事務局までお問い合わせください。

# ミンスクの便利



早いものでまた一年、学年が終わり、学校は夏休みに入りました。学年末には、一年間使っていた教科書を学校に返し、次の学年の教科書を全部貸してもらおうことになっています。つまり、夏休みの間に勉強した内容を復習しようとしても、教科書は手元にない、ということになるのです。9月から大学に進学予定の卒業生（11年生）は、卒業試験が終了するとすぐに大学入試が始まりますが、入試に備えて夏休み返上で勉強、という様子は見えません。休みは休むためのもの、宿題は無いのが当たり前。徹底しています。教科書が無くて文句を言う人もいないのでしょう。

返却する前に3年生の教科書にざっと目を通してみました。ベラルーシの学校には、低学年の教科に「人間と世界」というものがあります。これは、日本の小学1・2年生の「生活科」に似た科目で、理科（自然と人間）と社会（人間と社会）に保健（人間と健康）、大きく三つの内容に分けられています。学年が上になると、「歴史」や「地理」、「化学」「生物」「物理」などの独立した専門科目に進んでいきます。日本の「生活科」も私の小学生時代には無かった科目ですが、「人間と世界」も旧ソ連時代には無かった新しい科目のようです。3年生の教科書では「オリエンテーション」「地球儀と地図で見る地球」「私の国」「地球の多様な自然」という項目が理科の内容となっているほか、人体の構造や健康についての内容が含まれており、社会科に当たる「人間と社会」は含まれていませんが、理科の部分は地理と重なる内容になっています。面白いのは「オリエンテーション」で、ここでは自分の位置を知るにはどうするか、ということが教えられています。方角やコンパスの使い方、地平線とは何か、などのほか、道に迷った時にはどうやって方角を知ればよいか、ということも書いてあります。森の中では、単独で立っている木は南側に葉が茂り、

蟻塚では南側の斜面がなだらかになるのだそうです。ベラルーシの自然や地形についての記述も勉強になりました。ベラルーシは山の無い、平らで湖や沼の多い国だという程度の認識しかありませんでしたが、多少なりとも高低の差はあり、国内で最も高い地点（海拔345m）には「ジェルジンスク山」という名前がついています。また、首都ミンスクは周囲と比べれば土地が高くなっており、「ミンスク高地」と呼ばれるほか、平らなベラルーシにも幾つかの名前のついた高地と低地が存在していることが分かりました。

「人間と世界」の教科書には、人体や健康について扱っている部分がありますが、その中に飲酒や喫煙の害を説く記述がありました。飲酒は日本でよく言うように「適量ならプラス」ではなく、100%害とされているのは小学生向けとしてはよいとして、タバコについては、「上級生はよく下級生に喫煙を進めるが、有害なので誘惑に負けてはならない」という意味のことが書いてあり、驚きました。

すでに配られた4年生の教科書の中には、この「人間と世界」は見当たらず、その代わりに「我が祖国ベラルーシ」という教科書が入っていました。ベラルーシ語で書かれていて、ベラルーシの歴史を古代から現在まで一冊で学ぶ内容になっています。

ベラルーシの教科書にはイラストや写真もありますが、全体として文字がかなり多い印象です。見た目は地味ですが、3年生ともなると大人が読んでも勉強になることが多々あり、教育というのは偉大なものだと思います。日本の教科書はそれに比べオールカラーで美しい図版が満載、さまざまな工夫がこらしてあり、しかもそれを無償で配布しているのですから恐れ入ります。逆にただでもらえるために有り難みがなくなるのか、学年が終わると捨てられてしまったりするので、何とももったいない話です。

花田朋子：ミンスク在住

## 黒部ドクターのお話

### 紫外線による害の話

今は赤ちゃんの時から、日光つまり紫外線にあたらないようにする時代となりました。先進国の学校教育で教えるようになり、日本でも学校で教えなければいけない時が来たと、東北大皮膚科教授が言ったのが20年くらい前です。

紫外線による害は、放射線と同じで、すぐ出ないことが多いので、軽視されています。子どもが日焼けしても、少なくとも10年は何も出ません。もちろん、ひどい日焼けをすると赤くはれ、熱をもち、水疱ができ、痛くて、ちょうどやけどしたようになります(急性反応)。スキーでの雪目も角膜の急性炎症です。しかし、多くの方はそうならないので、子どもの日焼けは軽視され、むしろ健康的だと思われていました。今は、大人の世界では紫外線の害が知られて、UVカット商品がほとんどになりましたが、子どもへの害が野放しにされています(ここでは、日焼けとその対策、日焼け止めの話は省略します)。

光老化は、紫外線を繰り返し長年浴びることにより生じます。シミ、しわはその代表的なもので、最後は皮膚がんです。目では、白内障と翼状片です。まずシミですが、強い日焼けを繰り返した皮膚では、光線性花弁状色素斑が日焼け部位に20歳過ぎに多発しますし、早ければ日光性黒子が出ます。老化に伴うくすんだ皮膚の色素沈着は、表皮の回復の遅延と言います。

しわは皮膚の構造変化と機能低下のためですが、皮膚が日に焼ける量の10分の1の紫外線によって、皮膚の繊維の断裂が生じ、若い時は新しいコラーゲンによって修復されてしわができないが、老化に伴い、コラーゲン合成が間に合わず、しわが生じるといいます。日光によるがんの前段階の日光角化症は、日本人では高発年齢は60~70歳であり、顔や手のがんも50歳過ぎてからです。

光老化は、予防が可能であり、小児期から上手に太陽と付き合えば、60~80歳になって

も光老化症状が著しく少なく、若々しい健康な皮膚を維持できます。若々しい肌は、精神的若さを保ち、ホルモン分泌も盛んとなり、全身的なアンチエイジング(抗高齢化)効果を期待できます。

子どもの頃の日焼けが原因で、成人後に光老化症状が出る実証されています。まだ日本では、母子手帳から「日光浴」の表現が、「外気浴」に変わったくらいで、気象庁から紫外線情報が流されていても、子どもたちへの対策はなされていません。赤ちゃんから帽子をかぶり、日焼け止め剤を使用すべきであり、保育所や幼稚園、学校でのプールでは必ず日焼け止めを使用すべきです。

オーストラリアでは、日焼け止めをぬっていない子はプールに入れません。日本では、未だにプールでの日焼け止め使用を禁止している所も多いようです。通学時にも日焼け止めを使用すべきであり、学校教育で紫外線の害を教えるべきでしょう。

紫外線によるDNA損傷の修復が完了する前に、細胞分裂が始まると、遺伝子に異常が生じやすく、細胞分裂が盛んな小児期には、遺伝子の変異が生じる確率が高いと考えられています。これらのことから、小児期、つまり赤ちゃんの時から紫外線防御対策が重要なことが判ります。人は18歳までに、一生に浴びる紫外線量の半分を浴びていると言います。まず、あなたの周りの身近な所から、紫外線防御を始めましょう。

この原理は、実は低線量の放射線被曝にも、あてはまることですが、放射線の防御の方法は、確立されていません。チェルノブイリの子どもたちは、そういう危険にさらされ続けているのです。

黒部信一：吹上共立診療所所長 小児科医師





## チェルノブイリ事故 24 周年関連 現地ニュースから

事故の起きた 4 月 26 日前後、日本のメディアではチェルノブイリ関連ニュース報道がほとんどありませんでした。当事国のウクライナ・ベラルーシ・ロシアで、また、ドイツ、リトアニアなどの周辺国では報道がありました。以下はボランティアの方がまとめた現地ニュースです。(抜粋:全文は基金のホームページに掲載)

ベラルーシの慈善団体「チェルノブイリの子どもたちに」のゲンナージー・グルシェヴォイ代表は、チェルノブイリ原発とオストロヴェツ原発には符合が見られると指摘した。両者には、技術的に許されない建設上の逸脱が見られ、わが国に第 2 のチェルノブイリをもたらす恐れがあるという。最初にグルシェヴォイ氏は、ソ連においてと同様、現在のベラルーシ政府も原発の建設計画に賛成するかどうか、住民の意思を尋ねていないと述べるとともに、ルカシェンコ大統領は、1990 年代には、原発建設の問題に関しては国民投票を実施して決めると公言していたにもかかわらず、その約束を果たしていないと指摘した。

Euroradio / DateBs ベラルーシ 2010/4/23

ロシア非常事態 [緊急事態] 省とロシア気象庁は合同で、今年末までにチェルノブイリ原発事故による放射能汚染地域にある居住地点のリストを確認する。該当居住地点リストの確認を目的に、各地の放射線状況と住民の被曝線量のモニタリング調査を今年中に実施する。 Vesti ロシア国営テレビ 2010/4/26

ベラルーシのルカシェンコ大統領は、チェルノブイリ事故記念日の今日、恒例の事故被災地域への訪問を行った。今回、大統領は、モギリョフ州チェリコフ地区を訪問した。モギリョフ州では、21 地区のうち 15 地区の 88 万 4 千ヘクタールが放射能に汚染された。移住措置や住民の自発的な移動によって、1990 年以来、これまでに 141 の居住地点 [市町村] が廃止されている。現在、モギリョフ州内の放射能汚染地域には、743 の居住地点がある。

BELTA 通信 (ベラルーシ国営通信) 2010/4/26

今日、ウクライナのヤヌコヴィチ大統領は、チェルノブイリ原子力発電所を訪れ、原発事故 24 周年の関連行事に参加した。事故処理作業に参加したりクビダートルの記念碑に花を捧げた後、発電所を訪れ、「シェルター」施設建設計画のプロジェクト進捗状況を視察した。 ForUm 通信 2010/4/26



ウクライナは、平和目的の原子力の危険性について認識し、ウランを手放したと ウクライナ大統領府プレス局が公表。チェルノブイリ事故 24 周年によせての国民向けメッセージの中で、ヤヌコヴィチ大統領は、チェルノブイリ原子力発電所事故被災者に対する社会支援の最適化をはかると語った。 NEWSru.ua 2010/4/26

### (その他のニュースから)

4 月 26 日、映画「ドア (The Door)」(原作「チェルノブイリの祈り」)がミンスクで上映 恒例のチェルノブイリ・デモ行進「チェルノブイリの道 2010」ミンスクで行われる ミンスク市内の正教会で、チェルノブイリ事故犠牲者のために黙祷が捧げられた ブルガリアの経済学者ら、「ベレネ」原発の建設を中止する必要があると主張 プーチン首相、原子力分野での統合をウクライナ側に提案 ロシアとイタリアが、カーニングロード原発の建設にあたって協力 国家登録されているロシアのチェルノブイリ事故被災者数は、60 万人あまり サンクト・ペテルブルグでも原子力災害犠牲者の追悼集会開かれる モスクワのミチノ墓地で、原子力事故・災害犠牲者に対する追悼集会が開かれる チェルノブイリ事故は独立ウクライナが核兵器を放棄する端緒となったと大統領が述べる ウクライナのアザロフ首相、チェルノブイリ事故被災者対策の改善を約束 国連、ロシア、ウクライナ、ベラルーシによるチェルノブイリ 25 周年会議の開催構想を支持 ロシア及びベラルーシ領内の放射能汚染地図帳が、各省庁、図書館、学校に配布される ロシア政府、ウクライナ政府に原子力分野での協力関係を提案 デモ行進「チェルノブイリの道」、リトアニアの首都ビリニユスでも行われる。地域に一度に 3 つの原発の建設計画が持ち上がっていることに抗議 12 万人のドイツ国民、原発に反対する抗議活動に参加。デモ参加者たちは「人間の鎖」を作った。

(まとめ・翻訳 平野)

## 販売品のご案内 ~ 収益は子どもたちの支援に

(子ども基金のホームページ“最新情報欄”にも一部写真入りで紹介しています)

### ベラルーシとウクライナの雑貨

「しおり：ベラルーシの女の子」

ベラルーシ製ハンドメイド 縦 14.8cm×横 4cm  
1枚 350円 台紙は紙製、模様部分は布。ベラルーシの民族衣装を身に着けた女の子がモチーフです。

「マトリョーシカのマグネット」

ウクライナ製ハンドメイド。およそ縦 6cm×横 (最大幅) 4cm 1個 350円 飾りとしても、またメモを貼り付けたりするのに便利です。

### クロス

「ベラルーシ製クロス」 700円

麻 55% × 綿 45% 1辺 48.5cm 正方形

「ベラルーシ製 ハンドメイド刺繍入りクロス」

800円 麻 100% 1辺 26.5cm 正方形

\* ゴメリ技術専門学校生たちによる刺繍

### ポストカード

「いのちの輝き」6枚組 広河隆一写真 500円  
(『クーヨン』7月号に掲載されました)

### 書籍

『ニーナ先生と子どもたち』広河隆一著・写真  
(小学館) “日本語版” 1,300円

チェルノブイリ事故により放射線汚染地域となった学校のニーナ先生、病気の子どもたち、自然界の異変、人が住めなくなった村など、被災地の様子を、写真を通して伝えています。

『ニーナ先生と子どもたち』“日本語版”  
+ “英語・ロシア語版” (チェルノブイリ子ども基金発行・モノクロ簡易版) セット販売のみ  
1,600円

『生きていたい!』チェルノブイリ子ども基金編 (小



『生きていたい!』35ページより

学館) 1,600円

チェルノブイリ事故当時、被害にあった子どもたちが描いた絵と詩。ふりがなつき。小学校低学年のお子さんにもお読みいただけます。

『写真記録 チェルノブイリ消えた458の村』広河隆一著 (日本図書センター)  
8,000円

放射能汚染により人の住むことができなくなってしまった村々の貴重な写真記録集。

『定本 千鳥ヶ淵へ行きましたか』石川逸子著  
影書房 1,200円 \*1

『“為替力”で資産を守れ』丹羽広著 アスキ  
メディアワークス 1,200円 \*2

\*1, 2とも著者からの寄付

### CD・DVD

CD「消えた故郷・生命の輝き2」ナターシャ・グジー (子ども基金 制作) 2,000円

チェルノブイリ 15周年救援 CD アルバム

CD「セルツェ」ナターシャ・グジー (音楽センター制作) 2,500円

CD「こころに咲く花」ナターシャ・グジー、  
カーチャ・グジー (音楽センター制作)  
2,500円

DVD「DIGNITY (尊厳)」広河隆一/映像 青柳  
拓次/音楽 (広河隆一事務所 制作) 2,000円  
テーマはチェルノブイリとパレスチナ。

ご注文方法：住所 電話番号 氏名  
希望品名と数量を明記の上、FAX・TEL・メールでお申し込みください。子ども基金のHPからもお申し込みいただけます。

お支払い方法：振込用紙を同封しますので、品物が届きましたらお振込みください。小額の場合には切手でのお支払いも可能です (封筒に金額分の切手を入れてお送りください)。

書籍の送料は\*1, 2のみ無料。他は送料をいただきます。

# \*\*\*\*\* 募金・救援状況 \*\*\*\*\*

募金状況 2010年3月～5月

|              | 3月               | 4月               | 5月             |
|--------------|------------------|------------------|----------------|
| 募金件数         | 201件             | 220件             | 68件            |
| 救援寄付金        | 609,580          | 575,280          | 309,695        |
| 保養費          | 64,000           | 55,000           | 87,000         |
| 特別保養費        | 140,000          | 70,000           | 105,000        |
| 里子支援         | 143,110          | 214,780          | 91,770         |
| '10 特別保養賛同金  | 48,000           | 38,500           | 4,000          |
| 通信費          | 58,000           | 48,000           | 26,000         |
| 24周年4月賛同金    | 72,000           | 89,300           | 9,500          |
| <b>合計(円)</b> | <b>1,134,690</b> | <b>1,090,860</b> | <b>632,965</b> |

☆他に現物寄付(商品券、切手) 12,962円分

## ♥ 募金団体名一覧 ♥

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。多くの方々からご寄付をいただきました。みなさまに心より感謝申し上げます。  
(順不同・敬称略)

### 【3月】

ストッププラトニウム神奈川連絡会／日本ユーラシア協会／コープかながわ よこすかコープケーション実行委員会／WE21 ジャパンおだわら／東京労音府中センター／東用堂治療院／北陸学院中学校／食生活改善普及会／日本キリスト教団 片倉教会 教会学校／東京自由保育園 父母会子ども基金／

### 【4月】

日本基督教団事務局／プラトニウムフリーコミュニケーション神奈川／広河隆一非核・平和写真展開催を支援する会／日本キリスト教会 南浦和教会／リサイクルグループカーリーナ／山口歯科医院／安西メディカル(株)／ジュピマール(有)

### 【5月】

自然環境センター／山口紅花舎／広島船越教会 婦人会／おはなしのいえ／チェルノブイリ24周年救援企画 in 名古屋実行委員会／(有)エニ タイム／



救援状況 2010年3月～5月 (単位:円)

### <ウクライナ>

#### 子どもたちの生存

特別保養費 1,108,530

### <ベラルーシ>

#### 希望 21

特別保養費(家族の保養費半額分) 372,240

#### 困難の中の子どもたちへ希望を

特別保養費(家族の保養バス代) 25,716  
 里子支援7人(1～6月、4～9月分) 195,462  
 奨学生支援8人 223,344  
 運営費(スタッフ給料半年分、車修理代ほか) 257,491

#### チェルノブイリのサイン

特別保養費(参加者の保険代) 1,936  
 里子支援2人(4～9月分) 56,274  
 運営費(スタッフ給料4カ月分) 52,522

### チェルノブイリ24周年救援キャンペーン 収支報告

| 収入        |                | 支出         |                |
|-----------|----------------|------------|----------------|
| チケット      | 682,000        | 現地報告&コンサート |                |
| 賛同金       | 170,800        | 会場費        | 70,400         |
| 会場募金      | 83,550         | 舞台費        | 107,060        |
| 物販益       | 37,210         | 写真展        |                |
|           |                | 会場費        | 34,700         |
|           |                | パネル利用料・送料  | 14,550         |
|           |                | 共通経費       |                |
|           |                | 交通費        | 18,210         |
|           |                | 印刷費        | 95,501         |
|           |                | 発送費        | 62,810         |
|           |                | 事務費        | 4,768          |
| <b>小計</b> | <b>973,560</b> | <b>小計</b>  | <b>407,999</b> |
|           |                | 収益(募金)     | 565,561        |
| <b>合計</b> | <b>973,560</b> | <b>合計</b>  | <b>973,560</b> |

### チェルノブイリ24周年救援キャンペーン収支報告

最新現地報告&チャリティコンサート・広河隆一写真展

募金額 565,561円

多くの方にご参加・ご協力いただき、このような収益をあげることができました。みなさまにお礼申し上げます。

### 各地のチェルノブイリ救援イベントからの募金

子ども基金主催のイベントのほか、名古屋、大阪の各地域でも24周年の救援イベントが行なわれました。主催者からいただいた募金は以下のとおりです。(各地域の報告は7ページをご覧ください)

♥チェルノブイリ24周年企画 in 名古屋

50,000円

♥'10 ノーモア チェルノブイリ 関西のつどい

40,000円

## 事務局から

### ボランティア参加について

事務局では、毎月第1・3土曜日の午後1時半～5時半、ボランティアの方に事務作業などを手伝っていただいています。9月の第3土曜日(9/18)はお休みです。

**ニュース発送作業(年4回:3・6・9・12月)**  
9/25(土)午後1時～5時 東京ボランティア市民活動センター B 会議室(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10 階)。作業を手伝っていただける方を募集しています。少しの時間でも歓迎です。

ボランティア参加希望の方は、日程が変更になる場合もありますので前日までにご連絡ください。

【問い】平日午前10時～午後5時半 留守の場合は伝言をお願いします。T&F 03-5228-2680

### ニュースについて

募金をくださった方には、その使われ方の報告として原則1年間お送りしています。また、ニュース購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送は実費の経費でまかなっておりますので、切手代とあわせても購読費以下で間に合います。残金は募金として使わせていただきます。

### 広河隆一の映像

「パレスチナ・チェルノブイリ・日本」

6月30日(水)～7月6日(火)

会場:キッドアイツラク・アートホール1F(東京)

\*対談 7/4(日)広河隆一×窪島誠一

詳細は“Days Japan” Tel.03(3322)0233 にお問い合わせください。

### 寄贈品のお礼

宮地様より絵本、三重チェルノブイリ被曝児童支援募金様よりキーホルダー・ハンカチ他、フェニックス証券様より布バッグ。絵本は保養所の図書館へ、その他は保養中の子どもたちにプレゼントとして渡されました。ありがとうございました。

### 監事・顧問の新任

4月1日より監事に清水玲子さん、顧問に黒部信一さんが就任されました。監事は現在の鈴木由利子さん、顧問は広河隆一さんとあわせて、それぞれ2人体制となります。

いつもあたたかいご支援をありがとうございます。振込用紙・領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

すべての方に振込用紙を同封しております。事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。すでに通信費・寄付金を納入され方はどうぞご容赦ください。

住所変更の方はお知らせください

新旧両方の住所を、葉書・FAX・Eメールまたは払込票の通信欄にてご連絡ください。また、通信が二重に届いている場合、ご家族で連名による一通送付でもよい場合なども同様にお知らせください。

払込取扱票のお名前・ご住所は

楷書でわかりやすくご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入いただければ大変助かります。

「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書がご入り用の場合はお申し出ください

ゆうちょ銀行口座間の振込みは、2010年9月

30日まで、ATMを使用すると手数料が無料です(2010年2月時点)。



ご不明な点がございましたら問い合わせください。今後ともどうぞよろしくお祈りいたします。

発行人 チェルノブイリ子ども基金 鈴木 稔 発行日 2010年6月26日(年4回発行)

〒162-0816 東京都新宿区白銀町25 メゾンド原207号室 Tel/Fax 03-5228-2680

郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

ウェブサイト = <http://www.smn.co.jp/cherno/index.html> e-mail: [cherno1986@tokyo.email.ne.jp](mailto:cherno1986@tokyo.email.ne.jp)

事務局ブログ更新中 神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>

当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。